

I 社会科 研究テーマ

自らの学習状況を見つめながら、主体的・協働的に学習問題の解決に取り組む子どもを育む学び

II 研究の重点

自分なりの考えを練り上げていく力を高める学習過程にするための手立てを工夫する。

III 2年次の成果と課題

1 成果

(1) 社会的事象について、自分の言葉で論理的に説明するための手立て

考えと根拠を区別して論理的に説明することに焦点を当てた。特に、自分の選んだ視点から仮説を立て、適切な資料から根拠を探し、考えと根拠をつなぐ理由付けを可視化する活動を大切にされた。また、子どもが必要に応じて資料を活用できるように図書資料一覧としてクラウド型協働学習支援ツール上に掲載し、思考することを促す取組も行った。

子どもたちは思考ツールを活用し、根拠や理由付けを示して説明する姿や互いに説明し合うことを通して比較・検討し、社会的事象について多角的に考察する姿が見られた。また、課題の解決につながる複数の資料を視覚的にも分かりやすく提示した。子どもたちが探した複数の資料を比較・検討する過程を仕組むことによってより課題が明確になり、考えと根拠のつながりを吟味し、自分なりの考えを練り上げていく姿にもつながった。

このことから、子ども自身が考えと根拠を区別し、そこをつなぐ理由付けを可視化するために思考ツールを活用したことは、社会的事象の意味について、自分の言葉で論理的に説明するために有効だったと考える。

(2) 必要感のある省察につながる情報交換の場の設定

自分の考えをもった上で、選んだ視点が異なる仲間と情報交換をし、互いの考えを関連付けて自分の考えを補強したり、自分にはなかった新たな考えを取り入れたりすることができるよう学習過程を構想した。根拠や互いの理由付けを比較して、視点のつながりを明らかにする情報交換となるよう、意図的にグループを編成した。

例えば6年「調べて発見！～戦国の世の統一～」の実践では、思考ツールを用いて可視化することにより、自分の考えやグループで整理した考えを互いに生かしながら話し合いを進める姿が見られた。織田信長と豊臣秀吉が勢力を拡大していったことについて、〈戦い方〉〈外国との交流〉〈政策〉という3つの視点の関連を考えることを通して、戦国の世が統一されたことについて解き明かしていった。〈戦い方〉と〈外国との交流〉については、鉄砲を使った戦術で他の大名を倒したと南蛮貿易で鉄砲を手に入れたこととのつながりを見いだした。また、〈外国との交流〉と〈政策〉のつながりについては、貿易港の堺を手に入れたことと南蛮貿易のつながりを見いだした。さらに、〈政策〉と〈戦い方〉については、堺の支配によって大量の鉄砲を得たことと長篠の戦いなど鉄砲を使った戦術のつながりを見いだした。

自分の考えをまとめた上で、視点が異なる仲間と情報交換をする場を設定したことは、必要感のある協働的な省察を生み出し、社会的事象の意味について視点を関連付けて考える姿を引き出すことにつながったと考える。

2 課題 考えをつなぎ、深め合っていく過程を大切にされた授業構想

資料を基に考えをもち、仲間と情報交換を通して考えを深めることができたが、話し合いを踏まえて学習問題についての自分なりのまとめをし、それを吟味して修正できる授業構想を工夫することが課題である。また、まとめを基に、自分の意見を表明したり自分なりに提案したりしていくことによって公民的資質が向上することにつながると考える。個別の課題設定をどうコーディネートするのか工夫し、子ども自身が問題解決のために自らの学習状況を見つめ、考えを深める姿を引き出すための授業構想を模索したい。